

[WG名]

QRコードを活用したイベントDXプロジェクト

[補助事業名]

可変型多機能QRコードによるイベントDX

[幹事企業名]

日本イベント企画株式会社

[WGメンバー]

株式会社かけはし

01

事業概要

イベント業務におけるQRコードの活用シーンは多様で、来場者管理、ルート案内、クーポンの発行など多岐に渡る。刻々と状況が変わるイベント現場において、QRコードを変えることなく（看板や印刷物のQR表示を差し替えないで）、その先の情報やサービスを現場で生成、変更できるシステムを開発することで、イベント業務の効率化やコスト削減だけでなく、来場者への多様なサービス、付加価値の提供を可能とし、人や予算が厳しい地方のイベント事業の高度化を推進する。

02

実施内容

1つのQRコードから発信するコンテンツを時間や季節によって切り替え、そのコンテンツをイベント現場で運営スタッフが作成、修正、切り替えることができる仕組みを開発、イベント現場でニーズが高い6つ機能を実装した。

① 情報発信	ノーコードで簡単にランディングページを作成。
② ラリーゲーム	スタンプラリーなど周遊型のゲームを作成。
③ くじ	商品や当選確率を登録し抽選の設定やくじを作成。
④ クーポン発行	割引クーポンやプレゼントクーポン、参加券の発行。
⑤ 案内・ガイド	道案内・音声・動画によるガイドを作成。
⑥ アンケート	選択式やフリー記述などアンケートフォームを作成。



管理画面から情報作成・切り替え操作

テーマパーク運営における活用実験

ぎふワールド・ローズガーデンの「ローズ・ウィーク」において日々の運営業務の効率化、サービスの向上における活用実験。

- ◎ 来場者対応が煩雑となる入場ゲート対応業務の効率化における①情報発信、⑤案内・ガイドを活用。
- ◎ 園内ショップにおける販促ツールとして③くじ、④クーポン発行を活用。



新たなイベント創出での活用

関ヶ原町が主催する戦国観光振興イベントにおいて、関ヶ原ファンクラブ（観光協会主宰）の会員向けの新しいデジタル合戦イベントを提案・実施。

- ◎ ③くじ機能を応用しユニークな対戦型ラリーゲームを提案。
- ◎ ①情報発信、②ラリーゲーム、③くじ、④クーポン発行、⑥アンケートの機能を活用し進行に合わせて発信する情報を変えることで運営を効率化。



03

検証項目とその結果

1. 「イベント業務の効率化・コスト削減」の効果

時間・季節によって提供する情報を変えるには看板を差し替えたり設置位置を移動させる必要があった。QRコードを間違えると看板の設置し直しや作り直しも。

- ◎ 1つの看板（QR）から発信する情報をイベントの進行や運営状況によって手元のタブレットで作成、変更できるため設置費、人件費の削減ができた。（テーマパーク）
- ◎ クーポンの印刷や抽選器の手配が不要になり、手元のタブレットで抽選確率や賞品の内容を変更できるため、コスト削減、業務の効率化につながった。（テーマパーク）
- ◎ 事前告知から当日の各種告知、ゲームの実施を1つのサインで運営することで、会場設置費、運営人件費を徹底して絞ったローコストイベントを実現。（関ヶ原）

2. 「来場者への多様なサービス、付加価値の提供」効果

古戦場史跡を周遊させる仕掛けとして、スタンプラリーは様々実施されていたが、他に効果的な方法があれば。

関ヶ原と言えば東西合戦。単なるスタンプラリーではなく、団体戦の東西合戦ゲーム「東西決戦！関ヶ原QR武将バトル2024」を実施。ゲームの開始時に参加者が東軍・西軍のどちらに従軍するかを決め、その後、7か所に設置された討取りポイントを回って得点を稼ぎ、軍の勝利に貢献する新団体戦型の新しいラリーゲーム。老若男女が参加し、アンケートではイベントの満足度92%。



04

今後の展開

- ・ 特に、日常的にイベントが行われるテーマパークやショッピングセンターなどの集客施設における販促、来場者サービス、運営業務の高度化での活用を目指し、それぞれの機能をブラッシュアップする。
- ・ イベントだけでなく防災などへの活用を想定した「通報機能」や「ID発行機能」などの新しい機能を開発する。
- ・ イベントだけでなく、印刷媒体や屋外広告と連携した広告の付加価値化での活用を進める。
- ・ 「関ヶ原QR武将バトル」のような独自のエンターテインメントコンテンツの利用提案による新たなイベント提案や既存イベントのDX化提案を進める。